

松原集落にある宝満神社では、毎年 4 月 3 日頃、その年の豊作を祈願して、赤米のお田植え祭りが古式豊かに行われています。宝満神社は玉依姫たまよりひめを祀る神社で、この神が海宮から五穀の種子を持参して、種子島に蒔いたと伝えられています。古代米とされる赤米はオイネと呼ばれ、お田植え祭りでは古くから舟型をした神田に植える習わしとなっています。また、お田はマエノ田とイナニワに分かれており、マエノ田は苗代田として使用し、お田植えはイナニワで行うようになっています。

祭の前日、宮座の人々は、お田の森の入口、お田、拝殿等に氏子から奉納された旗を立てます。そして当日の早朝、社人と祝殿しやにん ほうどんによって祭場となるお田の森の神木の根元に、米・塩・大豆・酒・二束のオイネが供えられ、神事の準備が行われます。そして、いよいよお田植え祭りの始まりです。



お田植舞の奉納（舟田での社人夫妻による舞い）

赤米お田植え祭事は、次の通り行われます。

1. お田植え祭りの場所 茎永^{いなむ}字^{せまぢ}稲庭お畦
2. お田植え祭りの時期 現在 4月3日頃（縁起によれば旧暦の4月）
3. お田植え奉仕者 社人・神職（祝殿）・氏子総代・公民館長・青年等
4. お田植え祭り次第
 - (イ) お田の森の神事 降神の儀・お苗授けの儀・昇神の儀
 - (ロ) お畦でのお田植え 氏子総代が、お畦に赤米のお苗を植えます。お田植えは、太鼓や作り拍子と呼ばれる田植え歌に合わせて、男だけで行われます。
 - (ハ) お田植え舞の奉納 お田の森前の舟田で、社人夫妻が田植え歌に合わせて優雅に舞います。
 - (ニ) 直会（ナオライ） お田の森正面のお畑で、お田植え奉仕者全員に赤米を原料にした甘酒と赤米のにぎり飯やツワブキ・竹の子・干し大根等を煮しめたご馳走が振る舞われます。直会には、神様と一緒に会食をするといった意味があるようです。
 - (ホ) マブリ祭 マブリは全てのお田植えの行事が終わった後、即ち9月10日、社人宅で行われていましたが、現在は直会と一緒に行われています。マブリは、社人が役員や氏子総代たちを慰労するものです。

稲のルーツを探る研究には、二つの大きな方法があるといわれています。

- ①稲の系統を植物学的に追求する方法。
- ②稲作に伴う農耕技術や神話、宗教儀礼、社会、経済のあり方を比較し追求する方法。

稲のルーツを考える際に、この両者の方法でクロスチェックできる、宝満神社お田植え祭りと赤米は、貴重な文化遺産であると考えられています。

また、古代米としての赤米が伝統的に栽培されている地域は、全国でも、ここ宝満神社と、長崎県対馬、岡山県総社市の3ヶ所だけです。



赤米